

# 大豆情報

## 令和元年 Vol.1

令和元年7月29日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

### 6月以降の気象経過

○6月中旬以降低温・少照○

<6月> 上旬は高温、中・下旬は低温傾向

日平均気温は上旬が平年より+1.0℃高く、中旬は-0.3℃と低く、下旬+0.2℃でした。日照時間は上旬は平年比123%で中旬117%と多く、下旬は80%と低くなりましたが、月全体では平年比110%でした。降水量は上旬は平年比93%でしたが、中旬232%、下旬185%と多くなり月全体では179%と多くなりました。

<7月> 気温は低く、日照時間は少ない

日平均気温は上旬は平年差-0.7℃、中旬-0.4℃と低くなりました。日照時間は上旬は平年比88%、中旬90%、降水量は上旬は平年比74%、中旬は55%と少なくなりました。

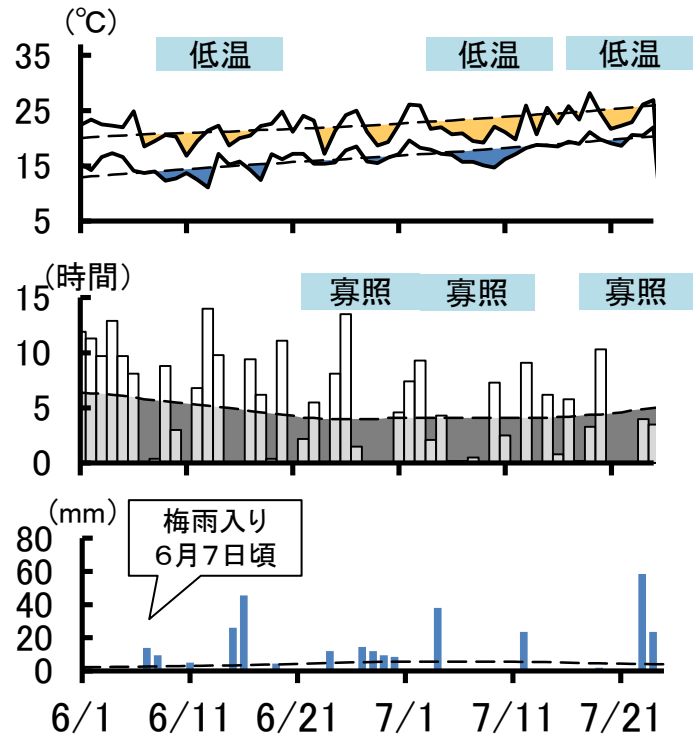
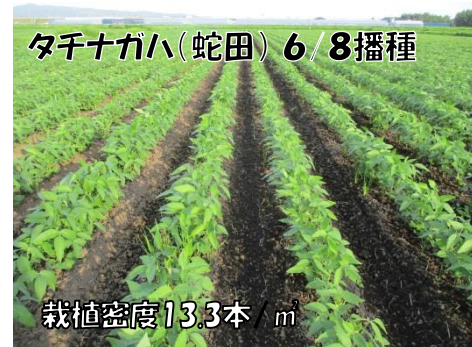
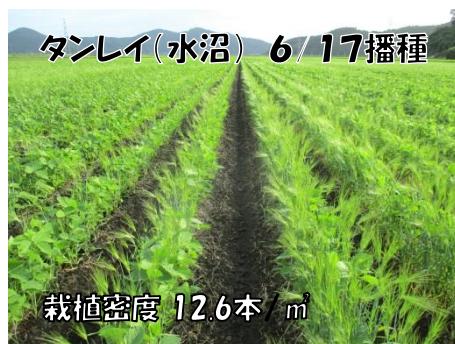


図1 6月以降の気象経過(アメダス石巻)

### 調査ほの生育状況(7/26)

初期生育量は平年に比べ少ない。



- ◆タンレイ：2ほ場とも播種が平年よりも遅れたため、生育量は平年を下回っています。
- ◆タチナガハ：播種は平年よりも7日早いものの、天候不順の影響もあり、生育量は平年を下回っています。
- ◆ミヤギシロメ：2ほ場とも播種が平年よりも遅れたため、生育量は下回っています。

※3品種とも分枝は確認できませんでした。

表1 調査ほの7月26日調査結果

品 種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広淵 (河南)	6/26	+9	+12	19.6	-19.1	-14.0	4.9	-5.8	-4.3	0.0	-2.0	-0.8
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/17	+5	+2	25.8	-11.8	-4.9	6.9	-2.7	-1.6	0.0	-1.6	-1.0
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/08	+1	-10	26.4	-13.1	-3.8	7.9	-3.2	-0.3	0.0	-1.0	-0.5
ミヤギシロメ (麦あと)	小船越 (河北)	7/09	+14	+25	12.5	-10.8	-22.6	2.3	-5.4	-7.0	0.0	-0.3	-1.3
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	7/03	+19	+14	16.7	-13.5	-13.5	4.0	-3.3	-3.9	0.0	-0.1	-0.6

※1 平年値：H26～H30の5か年平均。

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

## 「令和元年産大豆の生育の特徴とこれからの管理」

今年は、6月中旬以降、定期的にまとまった雨が繰り返し降ったことにより、播種作業を実施するための土壌水分等の条件が整ったほ場から播種が行われました。

そのため、ほ場ごとに出芽時期や茎の伸長、葉の展開の進み方に大きな差が見られます。また、湿害等により葉色が淡く、生育量が少ないほ場や生育が遅れているほ場も見られます。

### ◆湿害等による葉の黄化や生育不良の場合の追肥

湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には、硫安などの速効性肥料の追肥で生育回復を図りましょう。施用量は窒素成分で2kg/10a程度が目安です(窒素過多は根粒菌の活性を低下させるので注意しましょう)。

### ◆ほ場ごとの排水状況の確認

中耕培土等の作業が計画的に行えるよう、ほ場の停滞水の排水や土壌水分を少なくする(地下水位を下げる)管理作業を行いましょう。暗きよの水閘の開閉の確認やスコップ等で畦間と排水口(水尻)を確実に接続するようにしましょう。

### ◆ほ場ごとの生育ステージの確認による病害虫の適期防除の実施

今後、病害虫防除の実施にあたって、特に生育が遅れているほ場では、開花期等の生育ステージが後ろにずれることが心配されます。ほ場ごとに生育ステージを確認して、ほ場ごとの生育状況に合わせた適期防除を実施してください。

## ◆中耕・培土

- ◎ **開花期の10日前まで**に終わるようにしましょう。  
必ずほ場の状況を確認してから実施しましょう。
- ◎ 生育量が小さいほ場や排水不良のほ場、麦あと晩播になるほど、標播より作業可能期間が短くなるので、遅れないよう適期に作業しましょう。

※ **中耕・培土が遅すぎると、根の切断や花、莢に損傷を生じるだけでなく、分枝が機械に絡まることによって倒伏を助長するなど、減収につながる場合があります。**

## ◆追肥

- ◎ 湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には、硫安などの速効性肥料で生育回復を図りましょう。施用量は**N成分で2kg/10a程度**が目安です。

※ **窒素過多は根粒菌の活性を低下させるので注意しましょう。**

- ◎ 大豆は開花期以降多量の窒素を必要とするので、根粒菌の着生や地力が劣るほ場では、最終培土時に緩効性肥料(LP40)を現物で12kg/10a程度施用すると、増収が期待できます(普及に移す技術第53号)。

※ **ミヤギシロメでは蔓化・倒伏を助長する場合がありますので、注意しましょう。**

## ◆病害虫対策 (ほ場ごとの生育ステージに合わせた適期防除を！)

**タンレイ：紫斑病防除を最優先**

**ミヤギシロメとタチナガハ：マメシンクイガなどの子実害虫防除を優先**

### ◎ 紫斑病

降雨が多く、収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので、**タンレイでは開花期後20～40日に2回防除**しましょう(同一剤の使用は避ける)。

### <ポイント> 開花期を確認しましょう！

紫斑病対策には適期の薬剤散布が重要なので、**開花期を確認して防除日を決める必要**があります。

大豆の開花期は、「**1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日**」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

また、タンレイでは開花期の生育指標(目標収量300kg/10a)が示されているので、開花期に主茎長と主茎節数を測定することで、生育診断ができます(表4、普及に移す技術第87号より抜粋)。

表4 タンレイの開花期の目標生育量

播種期	主茎長	主茎節数
標播	約60～65cm	約13～14節
晩播	約45cm以上	10節以上

※ 目標収量300kg/10aとした場合の生育量の目安

◎ **子実害虫**(マメシクイガ, フタスジヒメハムシ, ダイズサヤムシガ, カメムシ等)

☆ **マメシクイガ**

連作ほ場で多発します。**8月末～9月はじめに1回目の防除**, その7～10日後に2回目の防除を行きましょう。

※マメシクイガは日長に反応して休眠覚醒するため、発生時期の年次変動は少ないのが特徴です。

☆ **フタスジヒメハムシ**

生育初期の葉の食害に加え, 若莢の表面を食害し, そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行きましょう。

☆ **ダイズサヤムシガ**

若齢幼虫が**大豆の生長点付近の葉をすり合わせて食害しているとき(右写真)に防除**しましょう。



◎ **食葉性害虫**(チョウ目幼虫, コガネムシ類)

開花期後(特に莢伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので、**食害葉面積率20%(右写真)を目安に防除**しましょう。



◎ **アブラムシ類**

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し, 多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

**葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右上)葉の裏を確認し, 発生が多いときには薬剤による防除**を行きましょう。また, モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



◆ **乾燥対策**

◎ 大豆は開花期以降, 大量の水を必要とし, 不足すると落花・落莢により減収するので, **晴天が7日以上続き, 土壌が白く乾燥し, 日中の葉の半分以上が反転している場合には, 暗きょを閉じて水分保持(地下かんがい)する**などの対策が有効です。

◎ 畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。

**畝間かん水の注意点**

① **必ず夕方～朝方にする**  
(日中は絶対にダメ!)

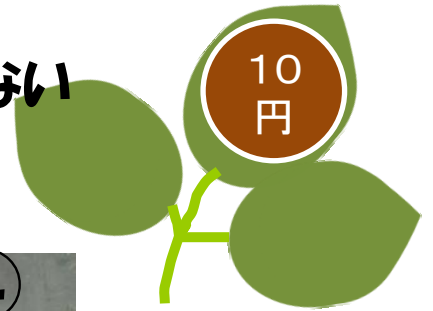
② **過湿にならないようにする**

(参考)

# 大豆の葉数の数え方について

## ◎本葉(3枚一組)を数える

真ん中が10円玉より小さい葉は数えない  
子葉, 初生葉は数えない  
分枝の葉は数えない



写真の場合は4葉期です。

※ 「主茎節数」は、子葉節と初生葉節も数えるので「葉数+2」となり、写真の場合は6節となります。

### 1か月予報 (7/27~8/26)

仙台管区气象台 7月25日発表

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

○週別気温経過の各階級の確率(%)

